

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：13801

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730653

研究課題名(和文)近代ドイツにおける「衛生学・衛生教育」の誕生と普及に関する歴史的研究

研究課題名(英文)A Historical Study of hygieiology and health education in Modern Germany

研究代表者

藤井 基貴 (FUJII, MOTOKI)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：80512532

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、近代ドイツにおける「衛生学・衛生教育」の成立と展開過程を歴史的に分析し、それが教育の理論、実践、制度に与えた影響を医学史および国際比較史的な視点から明らかにすることにある。そのために18世紀後半に出版され、世界各国においても広く利用された衛生学のテキストであるファウスト『衛生問答』に注目し、その内容、活用事例、改訂の内容分析等について分析を進めた。これによって教育史と医学史とを架橋・融合する研究領域を開拓するとともに、「衛生」および「医学」の視点から教育をとらえる研究視座の獲得を目指した。

研究成果の概要(英文)：This study traces the history of hygieiology and health education in modern Germany, focusing on Dr. Bernhard Christoph Faust (1755-1842), who played an active role at the end of 18th century as a public health doctor and writer in the field of hygiene. He published several revised editions of his book, The Catechism of Health. This book focused on the methods of instructing children how to live a healthy life. The first edition appeared in 1792, and Faust revised it in 1794 and again in 1802. This study analyzes how these texts reflect changes in Faust's views on child rearing and compare them with other writings by philosophers or educationists in the same period.

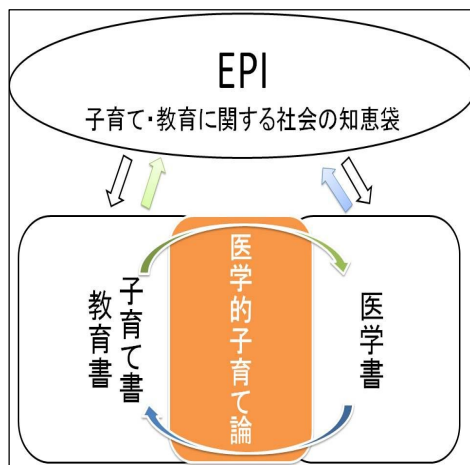
研究分野：教育学

キーワード：衛生学 衛生教育 近代ドイツ ファウスト 『衛生問答』 カント

1. 研究開始当初の背景

現在、教育学と医学とを架橋・融合する研究領域の開拓が全世界的な規模で積極的に推進されている。これに伴い、教育の営みと医の営みとの連関構造を歴史的な視点から解明しようとする新たな研究方法論に関心が集まっている。

小嶋秀夫(1996)は、教育と発達とを結びつけるEPI(Ethnopsychological Pool of Ideas)の概念を提起し、社会に貯蔵された子育ての知恵を構造として捉える視点を提示した。これを受けて中内敏夫(2000)はEPIの構造が歴史的に変容することに注目し、EPIを歴史研究の分析視点として導入する。こうして教育史と医学史との接続領域の研究が進められ、前田晶子(2009)らは近代日本における子育て論が小児医学によって再編される過程を「医学的子育て論」の系譜として析出した。このような研究成果が示されるなかで、教育史と医学史とを取り結ぶ研究上の課題として、日本医学の源流のひとつをなすドイツ近代医学、とりわけ衛生学に関する歴史研究の蓄積が手薄であることが研究上の課題となってきた。



2. 研究の目的

本研究の目的は、教育の歴史における医学的知見の受容とその影響を解明するために、近代ドイツにおいて成立した「衛生学」の理論および「衛生教育」の実践に注目し、その系譜を「医学的子育て論」として抽出することで、教育学と

医学の歴史的・思想的な連関構造を実証的に解明することにある。

3. 研究の方法

近代ドイツにおける「衛生学・衛生教育」の一つの到達点と目される衛生学者ファウスト(Bernhard Christoph Faust, 1755-1842)の『衛生問答』(1794年)を主たる研究対象とした。『衛生問答』は18世紀後半のドイツにおける衛生学の知識を問答形式でまとめた書物であり、家庭の育児書として普及しただけでなく、学校における衛生教育の指南書としても広く利用された。本研究では、1792年にまとめられた「草稿」から1802年の改訂版(図1)にいたるまでの改訂内容を同時代の衛生学の知見を反映・集約した成果と位置づけ、同時代の教育書における医学的な記述内容との比較検討を行った。

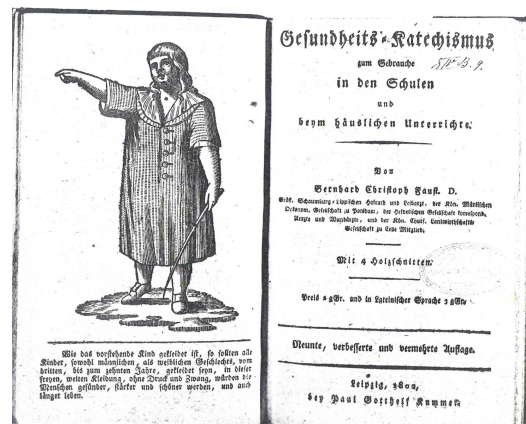


図1: 『衛生問答』(1802年、改訂版)

4. 研究成果

本研究において主たる分析対象となったファウスト『衛生問答』は1802年の改訂版にいたるまで15万部以上印刷され、13カ国語に翻訳されている。しかしながら、日本ではまだ翻訳がなされておらず、管見の限りでは先行研究もない。欧米諸国における先行研究においては、著者である医師ファウストの人物史に研究の重点が置かれており、『衛生問答』の版の異同について言及されておらず、書誌学的な分析が十分に進んでいるとはいえない。

本研究では、ドイツの図書館・文書館等で文献収集調査を行い、『草稿』(1792年、図2)等の

新たな史料を発掘するとともに、各版の内容の比較・分析を行った。

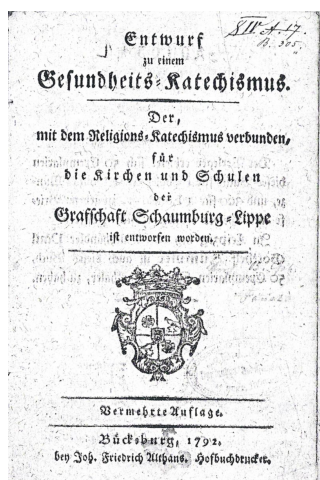


図2:『草稿』(1792年)

『衛生問答』(1794年)に先駆けて公刊された『草稿』は全52頁(200問答)であるのに対して、1794年に出版された『衛生問答』初版は全96頁(413問答)、1802年の『衛生問答』改訂版は全152頁(450問答)と版を重ねることに加筆、修正がなされている。『衛生問答』は版を重ねるごとに家庭の育児書として普及しただけでなく、学校における衛生教育の指南書としても利用され、内容が書き換えられていった。

『草稿』(1792年)についていえば、翌年に部分改訂された『草稿』(1793年)では、表紙の副題から「教義問答書と結びついた」という文言が削除されている。また、翌1794年の『衛生問答』の初版、および以降の版においては、タイトルにおいて「宗教」や「教会」といった言葉は使用されなくなっている。著者であるファウストが理性信仰への傾倒を示しつつ、啓蒙主義の時代になかった合理的で科学的な衛生教育の普及を目指したことがうかがえる。このように版を重ねるごとに『衛生問答』は国や伝統的なキリスト教を支持する教区だけに限定されない内容へと改訂されていき、国際的にも多くの読者を獲得するところとなった。この過程のなかで衛生学もまた科学化・近代化の歩みを進めた(論文)。

『草稿』から改訂版への内容の変遷のな

かでは、『草稿』において乳児を布でぐるぐる巻きにするスオッドリングの育児習慣が批判されており、『初版』では子どもが一人で寝ることが奨励されている。さらに改訂版では「小児用ベッド」が提案されるにいたる。このことはドイツにおいて1792年から1804年までの約10年間に乳幼児の寝かし方が一つの転換期にあったことを示している。それまでの母親や乳母との共寝から子どもが一人で寝ることへの転換は、たんに育児の慣行が見直されたことを意味するだけでなく、衛生学が新たな「子ども」や「子育て」の在り方を後押ししたことを示すものといえる(図書、)。

加えて、同時代の教育書であるルソーの『エミール』やカントの『教育学』との比較検討によって「自然愛」、「崇高」などの価値に関する概念史的な分析をすすめる(論文、)、これらの教育書に示された育児や教育に関する実践知や人間理解が当時の衛生学や医学の知見から多大な影響を受けていたことが明らかとなった。(論文)。

研究期間内に発表することができなかった『衛生問答』の訳出および影響作用史については引き続き研究を進めており、近年中の発表を目指したいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計5件)

藤井基貴「教育史におけるカント 大学史・教育思想史・影響作用史」『日本カント研究』16号、2015年、67-86頁、査読無。

藤井基貴「道徳教育における内容項目「自然愛」に関する基礎的研究」中村美知太郎との共著『教科開発学論集』3号、2015年3月、47-60頁、査読有。

藤井基貴「道徳教育の内容項目『畏敬の念』に関する基礎的研究」中村美智太郎との共著『教科開発学論集』第2号、2014年3月、173-183頁、査読有。

藤井基貴「図書紹介: マルティン・H・ユング

著 / 菱刈晃夫訳『メランヒトンとその時代
ドイツの教師の生涯』、『近代教育フォーラム』22、2013年9月、313-315頁、査読無。

藤井基貴「18世紀ドイツにおける子育ての近代化 - ファウスト『衛星問答』に注目して - 」、「日本の教育史学」教育史学会編、55集、2012年9月、85-97頁、査読有。
「教育史学会研究奨励賞」受賞

〔学会発表〕(計4件)

藤井基貴「教育学におけるカント」日本カント協会「共同討議1:カントと教育の問題」、2014年11月22日、於岡山大学。(岡山県・岡山市)。

藤井基貴「人間はいかにして自律的思考を形成しうるか?」ポスター発表、第7回超領域研究会、2014年6月20日、於静岡大学。(静岡県・浜松市)

藤井基貴「カント『教育学』における衛生学・医学の影響」名古屋大学教育史研究会、2012年9月13日、於愛知県女性総合センター。(愛知県・名古屋市)

Fujii Motoki, Kant's Philosophical Pedagogy in the German History of Education, The Inaugural Conference for Kant, Fichte, and the Legacy of German Idealism, University of Nebraska at Omaha, 13th April 2012.

〔図書〕(計2件)

藤井基貴「幼児教育の歴史と思想(1) 西欧」、『希望をつむぎだす幼児教育』あいり出版、2013年7月、48-59頁。

藤井基貴「コラム:子ども用ベッドの誕生」、『希望をつむぎだす幼児教育』あいり出版、2013年7月、60-61頁。

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~emfujii>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 基貴 (FUJII MOTOKI)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号: 80512532